生涯学習係　　学校支援センターの機能を充実させるために

利根教育事務所では、学校支援センターの機能を充実させるためのポイントとして、
① 教育効果を高める活動　② 持続可能なしくみ　③ 地域の教育力の高まり の3つを挙げています。

10月5日（金）、みなかみ町カルチャーセンターにおいて、「地域と学校のパートナーシップ推進フォーラム」が開催されました。講演（講師：東京学芸大学教授　松田恵示先生）と事例発表が行われました。その中から、学校支援センターの機能の充実に向けて参考となる内容を紹介します。

教育効果を高める活動づくり

池田中学校の例

地域の住民や諸団体の活動と学校の教育活動をマッチングできる公民館と連携し、生徒を地域に送り出すことで、教育効果を高めています。

【公民館と連携した活動の工夫】

☆学校の担当者と公民館職員で事前の打合せを行い、学校は地域と交流する際のねらいを明確にし、活動している。

◇ふれあいマス釣り大会　（身障者とのマス釣り大会）

（ねらい）　今までの福祉学習で身に付けたことを生かしながら、地域の身障者の方と心の交流を深める。

（活　動）　生徒は身障者の方の釣りの手伝いをしたり、地域の各団体の人と一緒にバーベキューの準備をしたりする。

◇池田地区共有林下草刈り

（ねらい）　地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛する気持ちを深める。

（活　動）　池田地区財産管理会、公民館職員、PTA役員等とともに、地域が所有する共有林の下草刈りを行う。

◇健民運動会　（地区・中学校合同運動会）

（ねらい）　地域の方と交流を深めながら運動会を支えることで、郷土の一員としての自覚と連帯意識を高める。

（活　動）　中学生の参加種目は少ないが、生徒は競技係員として地域の方と一緒に活動する。

【効果】

○学校と地域の諸団体を公民館がつなぐことで、多くの人の支援が得られ、ねらいが達成されている。
○道徳的実践の場として、郷土を愛する心、地域の一員としての自覚、思いやりなどが着実にはぐくまれている。
○地域の方からの感謝やねぎらいの言葉により、生徒の自尊感情や諸活動に対する意欲を高めている。

持続可能なしくみづくり

多那小学校の例

地域と学校の両方を知るＰＴＡの活動の一部として学校支援センターの組織・活動を位置付けることで、持続可能なしくみにしています。

【PTAを活用したしくみの工夫】

☆PTA副会長が、学校支援センターのコーディネーターになる。
☆PTA本部役員及びPTA健全班による地域連携委員会において人材バンクを更新する。
☆年度末PTA総会で、学校支援センターの実績報告と次年度の計画を配付する。

【効果】

○ボランティアの方は、PTA副会長からの依頼であり、快く引き受けていただけるとともに、長く支援が継続される。
○地域をよく知るPTA役員、地区委員に依頼することで、学校の求める人材が発掘され、蓄積されていく。
○学校がコーディネーターを人選する必要がなく、いつもコーディネーターからボランティアをお願いする地域の方に、教育方針や学校の事情等をより具体的に説明していただけ、効果的な支援が継続される。
○学社連携推進担当教諭が交替しても活動が継続する。また、新しく赴任した先生方も学校支援センターのしくみや内容を理解できる。

地域の教育力の高まり

松田先生の講演から

学校支援は、子どもと地域の大人が出会える場、大人が学習や経験を生かす場、人とつながる場となるので、地域の教育力が高まります。

今の子どもたちは、遊び、学び、伝統文化にふれるなどの体験が貧困である。地域の大人はそのような子どもたちの体験不足を補える存在である。地域を知っていることで、子どもたちを地域に導き出し、地域の自然や文化にふれる体験をさせることができる。また、子どもと適度な距離があるため、子どもは評価や他との比較をされずに活動できる。さらに、子どもは自分の思いや願いを伝えるために言葉を使う必要があり、コミュニケーション能力や人間関係を構築する力の向上にもつながる。